

教育子ども委員会 説明資料

瑞穂公園の整備について

平成30年12月25日
教育委員会

目 次

	頁
1 瑞穂公園の現状……………	1
2 瑞穂公園の整備計画……………	3
3 瑞穂公園陸上競技場の改築……………	4
4 瑞穂公園体育館（仮称）の建設……………	10

1 瑞穂公園の現状

(1) 公園の概要

区 分	内 容
開園年度	昭和 16 年度
都市計画決定	昭和 22 年度
都市公園法による設置	昭和 31 年度
公園面積	24.46ha
所在地	瑞穂区萩山町 3 丁目・4 丁目、師長町、山下通 5 丁目、豊岡通 3 丁目、田辺通 3 丁目・4 丁目
公園種別	運動公園
維持管理運営方式	指定管理者制度及び利用料金制度により、瑞穂運動場及び瑞穂公園を一体的に維持管理運営

(2) 陸上競技場の概要

区 分	内 容
所在地	瑞穂区山下通 5 丁目 1 番地
用途地域	第二種住居地域（一部、第一種中高層住居専用地域）
高度地区	31m 高度地区（一部、20m 高度地区）
敷地面積	74,109 m ²
建築面積	6,429 m ²
延床面積	12,857 m ²
竣工	竣工：昭和 16 年 2 月、改築：昭和 57 年 3 月 改修：平成 6 年 5 月
諸室	事務室、会議室、更衣室、トレーニングルーム、応接室、貴賓室、記録室、放送室、医務室、シャワー室、トイレ等
施設性能	<p>【競技場】 トラック：日本陸上競技連盟第 1 種公認陸上競技場 全天候舗装 400m 8 レーン ピッチ：天然芝 106m×71m</p> <p>【収容人数】 メインスタンド：9,000 人、バックスタンド：18,000 人 車椅子席 50 人</p>
利用者数(29 年度)	537,486 人
主な利用状況	<p>○県内唯一の第 1 種公認陸上競技場として全国大会を始めとする各種陸上競技大会を開催</p> <p>○J リーグ名古屋グランパスのホームスタジアム</p>

(3) その他の主な施設の概要

区分	竣工	利用者数 (29年度)	主な利用状況
北陸上競技場	昭和25年度 平成5年度 (移転改築)	186,539人	○陸上サブグラウンドとして利用 ○個人利用・サッカーの練習などで利用
ラグビー場	昭和25年度 平成元年度 (改築)	115,865人	○トップリーグを始めとするラグビーの利用 ○ラグビー・サッカー教室での利用
野球場	昭和32年度 平成2年度 (改築)	162,855人	○大学野球、高校野球など硬式野球の利用 ○準硬式野球や軟式野球、ソフトボール日本リーグなどの利用
田辺陸上競技場	昭和53年度 平成6年度 (改修)	16,065人	○投てき練習場として利用 ○野球練習場等として多目的利用
レクリエーション広場	平成6年度	103,785人	○各種競技の準備運動として利用 ○区民まつり、運動会などイベント会場としての利用

(注1) 上記のほか、ラグビー練習場、相撲場、弓道場、アーチェリー場、テニスコート、屋外・屋内プール、トレーニング室、宿泊研修室などがある。

(注2) 駐車場は常設で672台、臨時駐車場を含めると841台である。

(注3) 田辺陸上競技場は、瑞穂公園体育館(仮称)の建設に伴い廃止する。

2 瑞穂公園の整備計画

(1) 基本理念

- アジア競技大会のレガシーを踏まえたスポーツ振興の拠点として位置づける。
- 年齢や障害の有無などに関らず誰もが安全・安心で快適に利用でき、大規模大会を誘致することなどにより賑わいを創出し、名古屋市の魅力向上につながる総合運動公園とする。
- 緑と水のうるおいのある環境を活かして、市民の憩いの場所となる公園とする。
- 防災機能を高め、災害時に市民が安全・安心に避難できる公園とする。

(2) 取り組みの方向性

区 分	内 容
陸上競技場の改築	○瑞穂運動場の中心施設として、またアジア競技大会開催時にも各国から来賓やトップアスリート、多くの観客が訪れるのに相応しい施設として整備する。
体育館の建設	○屋外運動施設を中心に構成されている瑞穂運動場に、新たに体育館を建設し、市民利用の促進、各種大会の誘致を図る。 ○災害時の緊急物資集配拠点としての機能も備えることで、災害時における市民の安全・安心を確保する。
その他	○市民がこれまで以上に安全・安心に利用できるよう、車や歩行者の動線について検討をする。 ○市民の憩いの場となるような施設を設けるなど、市民が賑わいを感じながら、気軽にスポーツに取り組むことができる環境を整備する。 ○施設用地に広場を整備するとともに、イベント時の渋滞対策にも活用する。 ○国指定史跡大曲輪貝塚や大曲輪遺跡、古墳など公園内にある貴重な文化財を活用して魅力向上を図る。

3 瑞穂公園陸上競技場の改築

(1) 基本計画

ア 施設概要

区 分	内 容
観客席	○約 30,000 席とする。 ○アジア競技大会開催時は、フィールド内に仮設席約 5,000 席を設置することで約 35,000 席を確保する。
建築面積	○約 25,000 m ²
延床面積	○約 61,000 m ² ○アジア競技大会開催時は、仮設席を含め約 64,000 m ²
スタンド	○2 層構造（南側は 1 層構造） ○1 層目は 27 度、2 層目は 35 度の傾斜
屋根	○本設席を全て覆う。
高さ	○31m
動線・滞留場所	○選手、大会運営者、VIP、観客の動線分離を図るため、デッキなどを整備する。 ○混雑緩和を図るため滞留場所を整備する。
諸室	○陸上競技・サッカーの規定など及び競技団体の意見を踏まえる。 ○国際大会・全国大会開催実績のある陸上競技場における諸室の整備状況を参考とする。
競技性能	○トラック：全天候舗装 400m 9 レーン ○ピッチ：天然芝 108×71m
福祉対応	○福祉都市環境整備指針を踏まえた車椅子席数、サイトライン、多目的トイレ数、座席までの動線を整備する。 ○Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドラインを参考にす る。
大曲輪遺跡	○遺跡を保存し整備する。

イメージ（南西上空より）



イ 事業概要

区 分	内 容
事業範囲	○陸上競技場の改築（設計・現施設取壊し・新施設建設） ○瑞穂運動場及び瑞穂公園を一体的に維持管理運営
維持管理運営期間	○陸上競技場は供用開始後 15 年間（2026～2040 年度） ○その他施設は 18 年間（2023～2040 年度）

ウ 概算事業費

区 分	金 額
概算事業費（税込 10%）	約 630 億円

(2) 民間活力の導入可能性

区 分	従来方式	P F I 方式
概 要	設計・工事を市が行い、別途維持管理運営者を選定する。	設計・工事及び維持管理運営を一括して民間に委ねる。
費 用	設計・工事が分離しており、また仕様発注のため、費用の削減効果が小さい。	設計・工事の包括発注、また性能発注により民間ノウハウが発揮され、費用削減効果が大きい。
市負担の平準化	起債充当部分は一定程度平準化できるが、起債充当できない部分は、建設期間中に一般財源の投入が必要である。	起債充当できない部分は、建設期間中に一般財源の投入が必要だが、民間資金を活用するため、建設期間中の市の負担額は小さい。
スケジュール	設計・工事を分割して発注するため、工期短縮が図りにくい。	設計・工事を一括発注するため、工期短縮を期待できる。
V F M (削減率)	—	5.74%

(注1) P F I 方式のうち、B T O方式(民間事業者自らが資金を調達の上、施設を建設し、所有権を公共に移転後、維持管理運営を行うもの。)とした。

(注2) V F Mは、従来方式と比較してP F I方式が総事業費をどれだけ削減できるかを示す割合である。

(3) その他の基本計画案

ア 概要

区 分	別案 1	別案 2
観客席	約 35,000 席	約 23,000 席 アジア競技大会開催時は、フィールド内及び東側スタンド外周部に仮設席約 12,000 席を設置することで約 35,000 席を確保する。
建築面積	約 26,000 m ²	約 24,000 m ²
延床面積	約 63,000 m ²	約 56,000 m ² アジア競技大会開催時は、仮設席を含め約 63,000 m ²
スタンド	2 層構造 (南側は 1 層構造)	2 層構造 (南側は 1 層構造) 東側はアジア競技大会後に外周部仮設席を撤去し 1 層構造となる。
高さ	35m	31m
屋根	本設席を全て覆う。	本設席を全て覆う。 ただし、アジア競技大会開催時は、スタンド外周に仮設のある東側スタンドに屋根の設置ができない。
概算事業費	約 710 億円	約 570 億円
VFM(削減率)	5.31%	6.45%

イ イメージ (南西上空より)

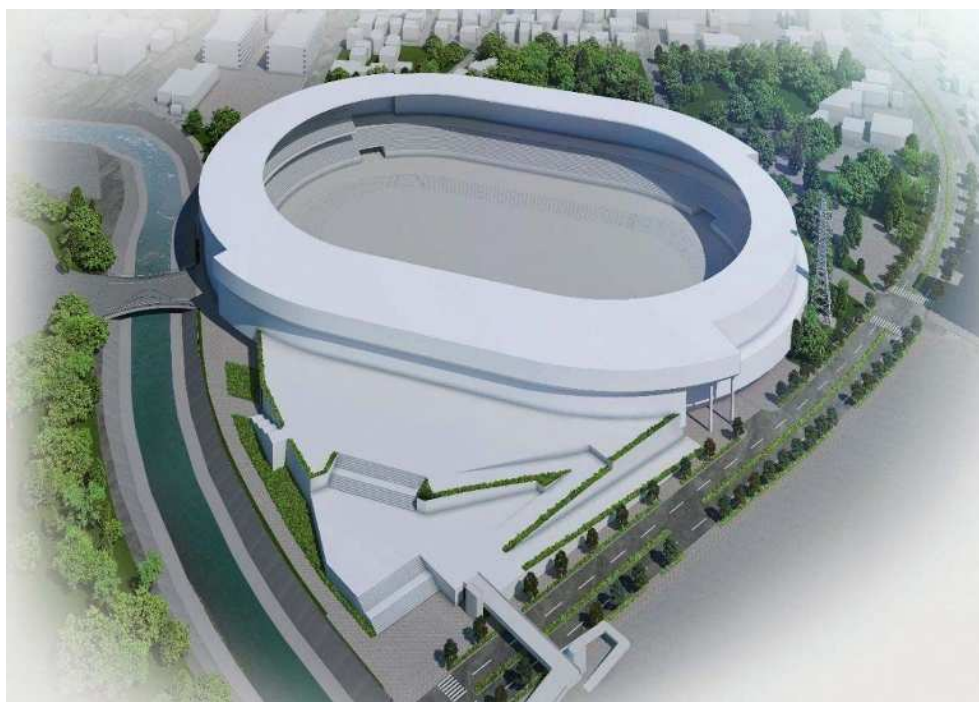
別案 1












別案2 (アジア競技大会開催時)



(アジア競技大会後の通常利用)



(4) 想定スケジュール

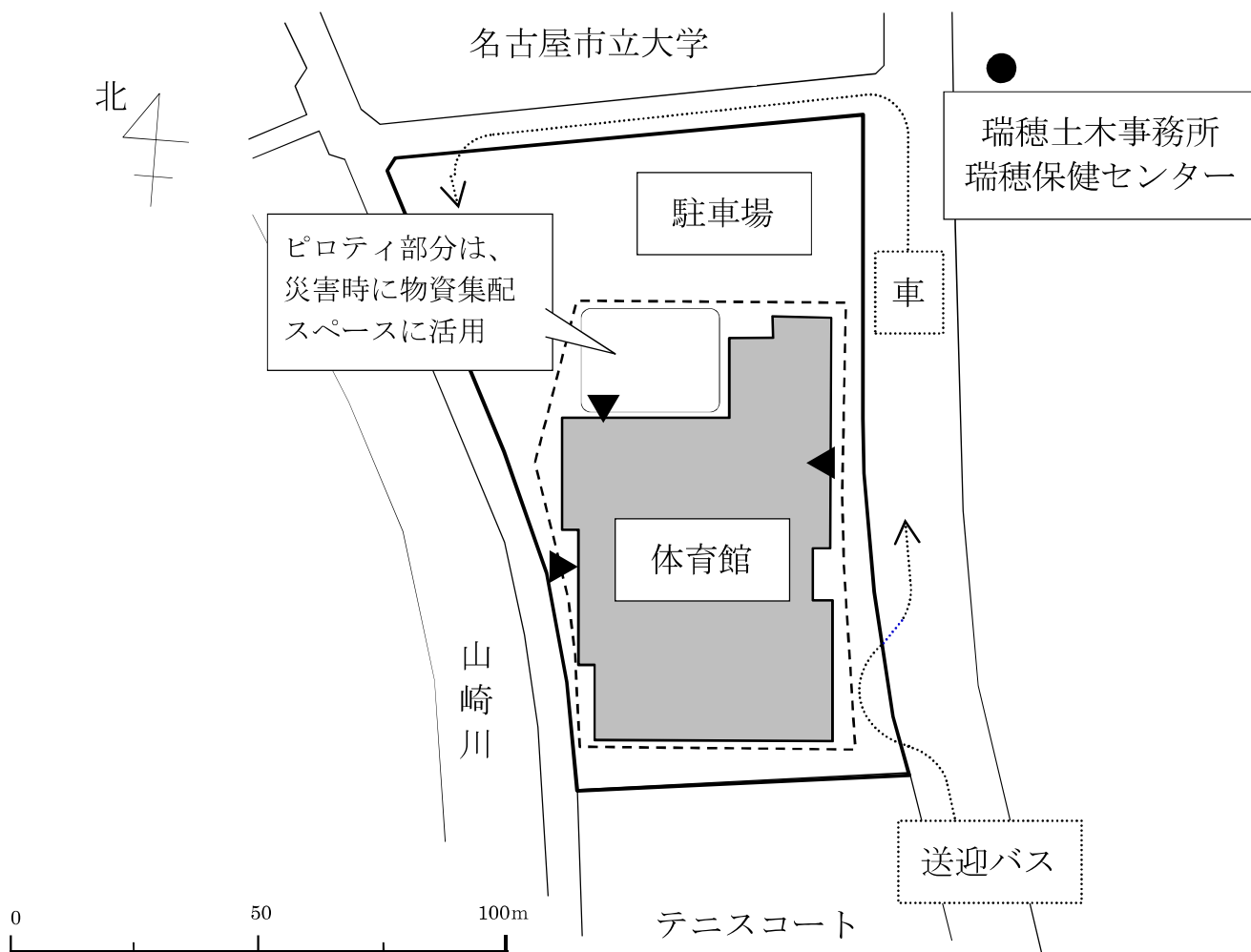
区 分	2018 年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
整備手法等調査									
公園全体計画の 策定									
事業者選定									
設計・行政手続き									
取り壊し工事									
建設工事									
開業準備									
供用									
第 20 回アジア 競技大会									

4 瑞穂公園体育館（仮称）の建設

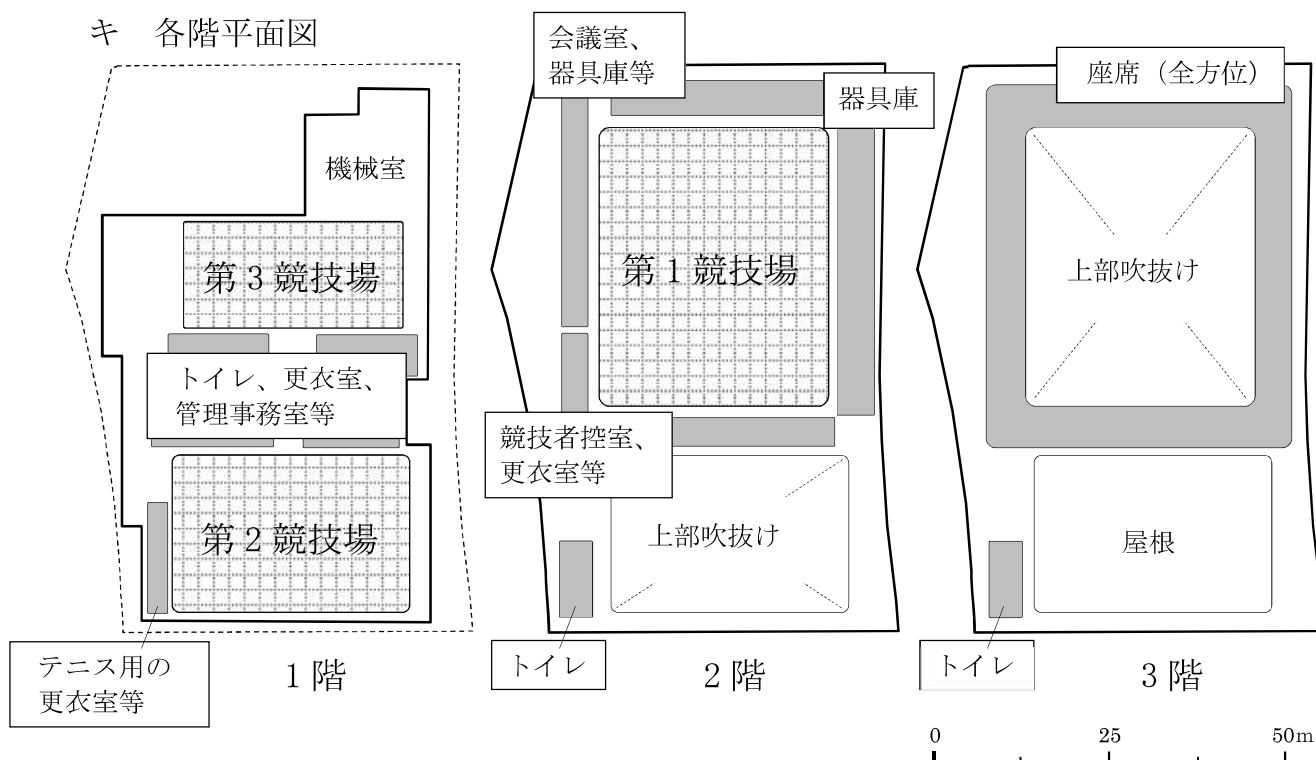
(1) 建物概要

ア	建設地	瑞穂区田辺通3丁目
イ	敷地面積	8,800 m ²
ウ	建築面積	4,422 m ²
エ	延床面積	9,490 m ²
オ	構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上4階 (一部鉄骨造)

カ 配置図



キ 各階平面図



ク 特色

区分	内容
競技場の機能	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模な大会を開催するため、第1競技場と同時に利用できる第2競技場を備える。 ○格技と軽運動に利用できる第3競技場を備える。 ○第1競技場には、全方向から競技を見ることが出来る座席を備える。 ○大会運営を円滑に行えるように、競技者ゾーンと運営ゾーンを区分する。
防災の機能	<ul style="list-style-type: none"> ○市東南部の緊急物資集配拠点として、荷卸しや仕分けをするスペースや、物資を風雨から守るピロティなどを備える。
その他の機能	<ul style="list-style-type: none"> ○エレベーターや車椅子席、多目的トイレや多目的更衣室を整備するなど、バリアフリーに配慮した施設とする。 ○公園内の施設として、周囲の環境に配慮した施設とする。

ケ 主な施設

区 分	内 容
第 1 競技場	ドッジボール／2面 バスケットボール／2面 バレーボール（6人制）／3面 バドミントン／10面 セパタクロ／3面 等
第 2 競技場	ドッジボール／1面 バスケットボール／1面 バレーボール（6人制）／1面 バドミントン／4面 セパタクロ／2面 等
第 3 競技場	格技場機能 剣道、柔道、空手 等 軽運動室機能 卓球、エアロビクスダンス 等
会議室	2室（内、1室は2室分割が可能）
駐車場	100台程度 ピロティ部分は、災害時に物資集配スペースとして活用
駐輪場	60台程度

(2) 今後の予定

2019年3月～2021年3月	建設工事
2021年4～6月	開館準備
2021年7月	供用開始

(3) 完成予想図



北西上空より



北西地上より



南東地上より

